

地域資源循環型フードシステムの構築と農山漁村の地域活性化

キーワード 地域活性化, 6次産業化, 地域ブランド

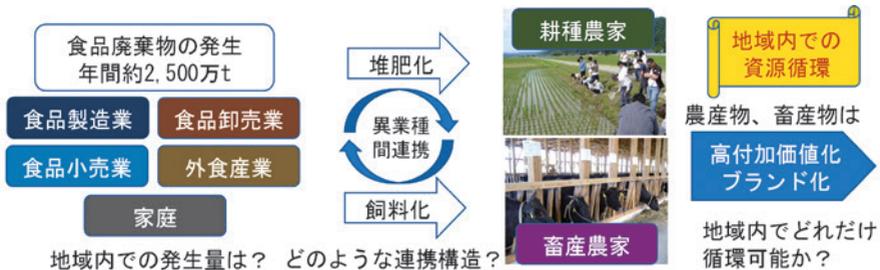


■ 研究概要

地域活性化や農山漁村の6次産業化を図るために何をすればよいのか、地域ブランドや地域資源循環型フードシステムを構築するためにはどうすればよいのか等、悩んでいる農林漁業者、事業者、行政担当者の皆様、ご相談ください。

農山漁村を活性化するためには、まず、その地域で武器となる資源（農産物、商品、人材、企業・組織、食文化、歴史）を明確にする必要があります。眠っている地域資源を発掘し、プラスαで新しい取り組みを考えていきます。発掘した様々な地域資源を結びつけることで、相乗効果を得られるものは何か、新規性のある取り組みは何か、地域波及効果の高いものは何かを検討していきます。

日本全体で本来食べられるのに捨てられている食品ロスは600万tと言われていいます。これらを地域内で、堆肥・飼料等として農畜産業に有効利用して、再び食品として流通させる地域資源循環型フードシステムを構築するための研究もしています。



■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・地域において、地域ブランドや地域資源循環型フードシステムを構築するために必要な連携構造を一緒に考えます。
- ・農業者や事業者の6次産業化や食に関するビジネスプランを考えるお手伝いをします。

藤科 智海 教授 FUJISHINA, Tomoumi

専門分野：農業経済学・フードシステム論
E-mail：fujishina@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

